

● 事業のきっかけ

委員長自身が、姑と同居の経験から、認知症や高齢者の徘徊について問題意識を持っておられたところ、区役所から、徘徊高齢者の対応訓練実施の誘いがあったため、取り組むことにしたそうです。訓練は、1年に1度行っており、平成27年度で4回目。今回は、耳の不自由な女性が徘徊したケースを訓練しました。商業施設などへの訓練実施の周知は、連携しているあんしんすこやかセンター(※)から行っています。

(※)高齢者の介護や見守りなどに関する総合相談窓口。地域ごとに担当センターがあります。

● UDのポイント・地域特有の取組

訓練は、認知症患者役が地域内を徘徊し、参加者が見守り、声かけ、保護する対応練習を行うもので、訓練前には、事前研修会を行い、講師を招いて、徘徊高齢者や認知症患者の見守りや接し方などを学習し、当日の訓練の練習もしています。高齢の親を自宅に留めようとしていた人は、「なぜ難しかったか分かった。地域も見守ってくれていると思うと、安心だ。」とも。

現在の訓練は、ふれまちスタッフや参加者だけでなく、その場に居合わせた人にも参加してもらっています。昨年、バスまで止めて、「鹿児島に行きたい」と無理難題。運転手も「こういうこともありうるから」と参加してくれたそうです。

この訓練を通じて、「徘徊する人がいる」という認識が住民に広がり、地域で徘徊する人がおられても、近所で見守りができてきているそうです。

● 期待されるUDの効果

「つつじが丘ふれまちでは、まちかどダイルームでの認知症予防・高齢者の居場所づくり、徘徊高齢者SOS訓練、事前研修会を行っています。これらを通じ、地域住民に向けて、『認知症予防の自助努力は必要であるが、認知症が進んでも、地域に居場所と見守りがあり、暮らし続けることができる』というメッセージを伝えたいと思っています。」と委員長。このほか、子育てママ向け「すくすく広場」や障がい者向け「のびのび広場」、ふれあい喫茶など、多種の居場所作りが行われ、これらの取り組みが、皆が安心して暮らせるまちづくりにつながっています。

<まちかどダイルーム「ほのぼの」>

つつじが丘ふれまちで行う認知症予防、高齢者の居場所づくりのひとつ。月1度、60才代~80才代の女性、約25人ほどが地域福祉センターに集まります。高齢者や介護者の相談ができる場、高齢者等の居場所づくりとして取り組んでおり、現在は、地域の聴覚障がい者の方に手話講座をお願いし、手話を通じた認知症予防に取り組んでいます。

参加の皆さんは、楽しそうに手話で自己紹介などに取り組み、わきあいあいと楽しい雰囲気でした。この日は、手話講師からケーキの差し入れがあり、お茶の時間は一層にぎやかでした。



手話をつけて合唱



事前学習で認知症を学習



当日の訓練の練習



訓練でも声をかけるのは、勇気が必要

UD
サポーター
より

高齢化地域ですが、次の担い手が育っている点はその点は安心できるのではないかと思います。それぞれの立場の人に支援できるような色々な窓口があり、居場所づくりも考えられています。手話教室では参加者の皆さんがとても明るく本当に「ほのぼの」と言った雰囲気の中で、手話を楽しんでいるので参加者が増えているのも分かります。手話の指導役の方とふれまちの縁は、挨拶がきっかけだったとお話はUDとして嬉しい限りでした。(M)

● 事業のきっかけ

開始当時のふれまちの委員長が、民生委員を務めていた際に、地域にあるグループホームとつながりがあったことがきっかけとなっています。施設で、音楽療法(歌や踊りなど)を受けていた入居者のとても良い表情が印象的で、地域でも高齢者が元気に暮らすために何かできれば、と検討された結果、平成21年度に開始されました。

● UDのポイント・地域特有の取組

2ヶ月に1回開催されるこの交流事業には、様々なプログラム(踊り、音楽療法、民族楽器などの音楽鑑賞、演芸鑑賞など)があります。

交流中は、入居者の皆さんも笑顔でいきいきと楽しまれていました。取材当日は日本舞踊の鑑賞でしたが、みんなで一緒に踊るプログラムもあり、回を重ねるごとに一緒に踊る人が徐々に増えています。自分から積極的に動く機会はとても貴重で足腰にも良いそうです。

入居者の中には車いすを使用する方もおられて、会場(地域福祉センター)への移動には苦勞がありますが、様々な手段(施設の車や福祉タクシーなど)を活かして、会場まで移動しています。また、ふれまちスタッフにも民生委員が多く、そのノウハウを活かして、入居者の体調や心境に配慮しながら、スムーズに実施されていました。

プログラムの合間にはティータイムがあり、コーヒーやケーキを楽しみながら、入居者や施設職員と、地域の方や出演者が交流する時間になっています。ここでも施設の昼食に影響が出ないように、時間帯や分量に配慮がなされていました。

● 期待されるUDの効果

地域内にある施設なのに、以前は入居者と地域とのつながりが多くありませんでした。しかし、この交流事業が始まってからは地域との交流も増えて、施設と学校がつながり、小・中学校の運動会の見学にも出かけています。スタッフの準備は大変ですが、みなさんが喜んで楽しみにして下さることが励みになっています。今後も入居者と地域が様々なつながりを持ち、皆がいきいきと暮らせる地域づくりが期待されます。



日本舞踊「花笠踊り唄」



楽しくティータイム



みんなで踊りましょう

<プログラム(取材当日は日本舞踊の鑑賞)>

- ・10:30~
踊りの鑑賞
(花笠踊り唄、男の純情など)
- ・11:00~
ティータイム
- ・11:15~
全員参加で踊りましょう
(東京音頭、炭坑節など)
- ・11:30~
終了 順番に帰路へ



案内チラシ

UD
サポーター
より

この取り組みのどこがUDかという問いはあまり意味がなく、活動そのものがUDであると思います。日頃、あまり外出しない施設入居者が踊りを鑑賞し、一杯のお茶を飲みながら、笑顔が飛び交う様子は見ているだけでも楽しいものでした。(N)